



平成 26 年 7 月 7 日

国際審判員 松田 雅彦
(神奈川県ボート協会)

2014 World Rowing Cup II **(20th, Jun, – 22nd, Jun, 2014 Aiguebelette, France)**

I. はじめに

2014 年 6 月 20 日 (金) から 6 月 22 日 (日) に Aiguebelette, France で開催されました World Rowing Cup II に国際審判員として参加致しましたので、審判業務及び大会概要に就きまして報告申し上げます。

6 月 17 日 (火) 22 時 15 分羽田発、翌 18 日 04 時 00 分フランス シャルルドゴール空港着、パリ リヨン駅に移動し、TGV にて 12 時 51 分 Aix-les-bains 駅に到着した。時差は約 7 時間。

徒歩で指定されたホテルに行ったのだが、小生の名前は無かった。ホテルマン曰く「隣のホテルではないか？」との事であったので、行ってみると隣のホテルに小生の名前があった。

ホテルが変更されていた様である。翌朝フランス審判長 Mr. Mouly Jerome より本手違いの御詫びがあった。

6 月 21 日 (土) はフランス全土で「音楽の日」とされており、当地でも夜遅くまでイベントが繰り広げられていた。その為か、観光客が非常に多かった。

Aiguebelette はフランス南東部に位置し、スイス、イタリアと国境を接するローヌ・アルプ地方である。雄大なアルプスを望む山岳地域は過去 3 回冬季オリンピック、又、リヨンは 1998 年サッカー ワールドカップが開催された地である。

コース付近は避暑地として有名であり、別荘が多く立ち並んでいた。湖畔に建てられた別荘の中には直接湖に出艇出来る優雅なレジャー用ボートの係留場があった。

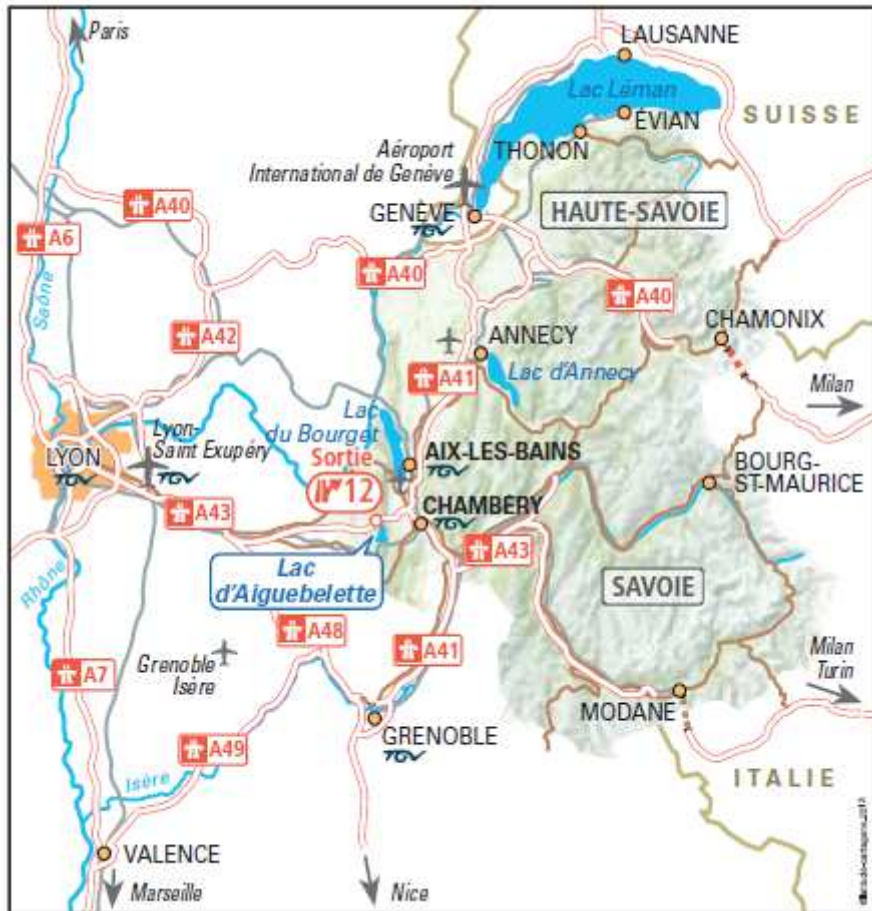
湖の水も非常にきれいで浅瀬でレースを観戦出来る場所も設置されていた。この様な湖でスタート前にペットボトルを放り投げる者はいないと思ったが、ボランティアがタモ

で各レーンを回って回収していた。毎回の事であるが、「ゴミは持ち帰る」という教育を受けてきた者にとってはこの光景には違和感がある。



湖畔の別荘





※Aigubelette 位置

II.大会概要

1. 大会日程

- 6月18日(水) Official Training
- 6月19日(木) Jury, Team Manager's Meeting & Draw / Para Rowing Heat
- 6月20日(金) Heats & Repechages
- 6月21日(土) Semifinals, International and Para-Rowing events Finals
- 6月22日(日) Finals B & A

※今大会は Para Rowing も開催された。

大会は09時00分頃から19時30分頃まで行われ、Para Rowing は健常者レース終了後、18時00分頃から行われた。

Para Rowing は1000mで開催されるので、2000mのレース終了後、時間を空けて、1000m付近に発艇台を設置した。つまり発艇台は2つある。

この辺りは北緯約45度(日本は北緯約35度)の為、この時期は日照時間が長

く、日出は 05 時 40 分頃、日没は 22 時 00 分頃。

2. コース

Aigubelette Regatta Course



	Reception – Information desk	H 2
	Information centre	B 3
	Athlete shuttle buses	C 2
	Changing rooms	A/B 3
	Showers	A/B 3 - C 3
	Cloakroom	C 4
	Athlete toilets	A/B 3 - B 2 - C 3 - E 2/3
	Spectator toilets	G 3 - H 2 - J 3
	Reduced mobility toilets	A 4
	Restaurant	A 2/3
	Snack bar	A 4 - C 3 - G 1 - G 3 - H 3
	Reduced mobility access	A 1 - A 4/5 - H 1
	First aid	D 4 - G 3
	Boat set-up area	B 5 - C 4 - B 3
	Merchandising and market place	B 4 - D 3 - G 4 - H 1/4 - I 2/3
	Standing spectators	G/H 3/4
	Protected area	J 3/4
	Interview area	I/J 3

1	Finish tower	I/J 4
2	Victory ceremony pontoon	H/I 4
3	Judge's catamaran pontoon	A 5/6 - I 4
4	TV catamaran pontoon (logistics)	H 4
5	Emergency access	A 5
6	Other pontoons	B 5 - C 5
7	Copying centre	B 3 - I 3
8	Score boards	A 3 - J 3
9	Large screens	D 4 - G 4 - H 4
10	Security services	C 2
11	Boat storage	A/B 3/4/5 - D 3/4
12	Motorboat pontoon	A 5/6
13	Control commission	B 5
14	Athlete weighing	B 3
15	Boat weighing	B 4
16	Registering tent	B 3
17	Rowing machines	A 4/5 - E 3
18	Boat repair and boat builders	A 4 - D/E 3
19	Boat washing	A 4 - B 4
20	Athlete rest area	A 4 - B 3 - C 3 - D 3 - E 4
21	Coaches' viewing	D 5

22	Press Grandstands	I 3
23	Nations' tents	E 3/4
24	Equipment containers	A 1
25	Meeting room	B 3
26	Draw	B 3
27	Jury meeting room	B 3
28	Organisation Committee offices	C 2 - J 3
29	FISA offices	B 3
30	Medical centre	A 3
31	Doping control	A 3
32	Massage	D 3
33	Ambulances	C 3 - G 3
34	Lifesaving and rescue services	A 4 - G 3
35	Press centre	I 3
36	Photographers	I 3/4
37	Commentator cabins	I 3
38	Grandstands	I 3
39	TV and radio enclosure	I/J 2
40	VIP reception area	J 3
41	Volunteers	A 3

※会場図



※コース位置



コースは 2000m 、0 レーンから 7 レーンの合計 8 レーンあり、レースは 1 レーンから 6 レーンまでで行われた。それらプラス スタートに向かうレーン及び Cool Down レーンがある。

上記図の通り、1000m-2000m は Cool down、0m-1000m は Adaptive の warp-up area で、0m よりも上側を健常者の warp-up area とした。

3、参加国 / エントリークルー数 / エントリー人数

合計 44 カ国、293 クルー、663 名の参加

国名	種目	クルー数	人数
Algeria(ALG)	LW1X, LM1X, LM2X	5	6
Angola(ANG)	LM2X	1	2
Argentina(ARG)	W1X, M1X, LM2X, LW2X, M2X, LM2-, M2-	8	14
Australia(AUS)	LW1X, LW2X, W2X, M2X, M4-	5	11
Austria(AUT)	LW1X, W1X, LM2X, W2X, M2X, LM2-, LM4-	7	14
Azerbaijan(AZE)	LM1X, M2X, LM2-	3	5
BENIN(BEN)	M1X	1	1
Belarus(BLR)	ASW1X, ASM1X, M1X, LW2X, W2X, M8+	6	16
Brazil(BRA)	ASW1X, ASM1X, TAMix2X, LW2X, LM2X, M2-, LM4-	9	18
Bulgaria(BUL)	LM1X, W1X, M1X, LM2X	5	6
Canada(CAN)	M1X, LW2X, LM2X, M2X, W2-, M4-, W4X, M4X, LM4-, W8+	10	34
China(CHN)	LW1X, LM1X, W1X, M1X, LM2X, LW2X, M2X, W2X, LM2-, W2-, M2-, W4X, M4X, M4-, W8+, M8+	21	60
Croatia(CRO)	M2X, M4-	3	7
Cuba(CUB)	M1X	1	1
Cze Republic(CZE)	W1X, M1X, LW2X, LM2X, M2X, M4X	7	14
Denmark(DEN)	LW1X, LM1X, M1X, LW2X, LM2X, W2X, M2X, W4X, LM4-	9	19
Egypt(EGY)	M1X, M2X	3	5
Estonia(EST)	ASM1X, W1X, M2X, M4X	4	8
Finland(FIN)	M1X, LM2X, W2X, M2-	4	7
France(FRA)	TAMix2X, LTAMix2X, LTAMix4+, LW1X, LM1X, W1X, M1X, W2-, M2-, LM2X, W2X, LM2-, M4X, LM4-, M4-, M8+	23	56
Great Britain(GBR)	ASW1X, ASM1X, LTAMix4+, LW1X, LM1X, LW2X, LM2X, W2X, M2X, LM2-, W2-, M2-, W4X, M4X, LM4-, M4-, W8+, M8+	22	66
Germany(GER)	ASM1X, LTAMix2X, LW1X, LM1X, W1X, M1X, LW2X, LM2X, M2X, W2-, M2-, W4X, M4X, M4-, W8+	21	47

Hong Kong China(HKG)	LW1X, LM1X, LM2X	6	9
hungary(HUN)	ASW1X, ASM1X, M1X, LM2X, M2X	5	7
Iran(IRI)	LW1X, LM1X, M2X, W4X, M8+	5	17
Ireland(IRL)	ASM1X, LM1X, W1X, M1X, LW2X, W2X, W2-	8	11
Israel(ISR)	ASW1X, TAMix2X, M2X	3	5
Italy(ITA)	ASW1X, ASM1X, LTAMix4+,	3	6
Mexico(MEX)	M1X, LW2X, LM2X, LM2-, M2-	6	11
Monaco(MON)	M1X	1	1
Netherlands(NED)	ASW1X, ASW1X, TAMix2X, W1X, M1X, LM2X, W2X, W4X	9	16
Norway(NOR)	M1X, LM2X, M2X, M4X	4	9
New Zealand(NZL)	LW1X, W1X, M1X, LM2X, W2X, M2X, W2-, M2-, W4X, M4X, LM4-	11	25
Poland(POL)	ASW1X, ASM1X, TAMix2X, LTAMix4+, LW2X, LM2X, W2X, M2X, M4-, W4X, M4X, LM4-, M8+	14	42
Portugal(POR)	LM2X	1	2
Russia(RUS)	ASW1X, ASM1X, TAMix2X,	3	4
Serbia(SRB)	M2X, M2-	2	4
Switzerland(SUI)	ASW1X, LM1X, W1X, LW2X, W2-	6	8
Slovakia(SVK)	M1X	1	1
Sweden(SWE)	W1X, M1X, LW2X	4	5
Tunisia(TUN)	LM1X	2	2
Ukraine(UKR)	ASW1X, TAMix2X, LTAMix2X, LTAMix4+,	4	9
United States(USA)	W1X, M1X, LW2X, LM2X, W2X, W2- , W4X, LM4-, M4-, W8+, M8+	16	51
Zimbabwe(ZIM)	W1X	1	1
44		293	663

4. 種目

①World Cup II

LM1X・M1X・LM2X・M2X・LM2-・M2-・LM4-・M4-・M4X・M8+
LW1X・W1X・LW2X・W2X・W2-・W4X・W4-・W8+

②Para-Rowing Events

ASM1X・

ASW1X
TA2X
LTAMix2X・LTAMix4+

5. 参加審判員

Jury Members (11ヶ国 合計20名)	NFS	Lic No.
① Mouly Jerome (P.Jury)	FRA	1484
② Smith Gregory Edward	AUS	1613
③ Sautois Roland	BEL	1086
④ Liu De Hai	CHN	1504
⑤ Agostine Jean-Paul	FRA	1306
⑥ Borel Regis	FRA	1565
⑦ Chaidron Guillaume	FRA	1671
⑧ Chevauchet Stephane	FRA	1480
⑨ Copie Marie-Laurence	FRA	1481
⑩ Costagliola Guy	FRA	1482
⑪ Forshaw Eleanor	FRA	1672
⑫ Marilaud Philippe	FRA	1673
⑬ Wittrant Catherine	FRA	1098
⑭ Cruickshank Lan	GBR	1431
⑮ Stephan Karin	GER	1475
⑯ Zacchigna Luca	ITA	1588
⑰ Matsuda Masahiko	JPN	1614
⑱ Omar Raihan	SIN	1555
⑲ Ottow Niels	SUI	1602
⑳ Ben Khedher Anis	TUN	1396

※基本的には英語での会話となるが、フランス、ベルギー、イタリア、スイス、
チュニジアの審判員はフランス語を話せた為（フランス人は英語が不得手な為）、
所々会話はフランス語になる事もあった。チュニジアは第2公用語がフランス語
との事。



6. 審判業務

① 部署配置 (小生)

- Jun, 19th : Umpire 5
- Jun, 20th : Umpire 5 / C.C. In
- Jun, 21st : Umpire 3 / C.C. In / Umpire 5
- Jun, 22nd : Umpire 1 / Resp. Judge at Finish

尚、各部署の人員は以下の通り。ITO は国際審判員、NTO は国内審判員。

- | | |
|---------------------------|-------------------------------------|
| a) Starter(発艇) | ITO 2 人、NTO 1 人 |
| b) Judge at Start (線審) | ITO 1 人、NTO 1 人 |
| c) Umpire(主審 主審艇は 6 艇) | ITO 1 人、Driver 1 人 |
| d) Judge at Finish (判定) | ITO 2 人、NTO 3 人 |
| e) Control Commission(監視) | ITO 6 人、NTO 7 人
(Resp./ Out/ In) |
| f) Boat Weighing(艇計量) | ITO 1 人、NTO 2 人 |
| g) Athlete Weighing(選手計量) | ITO 1 人、NTO 2 人 |

② 業務に関して

大会前日 6 月 19 日 (木) 10 時 00 分より Jury Meeting が開催された。自己紹介の後、審判長 Mr. Mouly Jerome(FRA)から審判上の注意があった。大会中の事項も含め列挙する。

- 規則改訂通り、100m以内での艇の故障は認めない。

- **Boat Weighing(艇計量)**

Wire 等の機器類で艇に固定(**firmly fixed**)されているものは艇重量に含めるが、モニター類 (ストロークコーチ、コックスボックス) は艇重量に含めないとの事 (取り外す)。

Seat の Seat Pad は艇重量に含める。

- **Time Trial**

今大会は試験的に **Time Trial(TT)**が導入された。**Word Cup(WC)**において最低 2 回の通常通りの並べたレース(**Side by Side Race**)を行うと **FISA** は公約しているとの事である。その為、参加クルーが 7 クルー以上 12 クルー以下の場合、**Progression System** により準決勝がないので、**Time Trial (Heat の Seed と位置付) と Heat(予選)**が行われた。本件はある国より指摘があり、当初 **FISA HP** で公表されていた競漕日程 (当初は **Heat** を **TT** とし、敗復、決勝のみと公表されていたが、これでは **Heat** を勝ち上がったものは 1 回しか **Side by Side Race** を行わない事となる) を変更する事となった。(6月17日付で変更)**Team Manager Meeting** では **FISA Secretary General Mr. Matt Smith** が各クルーに訂正を説明の上、御詫びされた。

Time Trial は参加クルーが 49 クルー以上の場合、悪天候で競漕日程に余裕が無い場合、一般の国際大会では審判長、**FISA** 大会では **Executive Committee** が必要と認めた場合、行われる。

使用するレーンは 1 or 2 レーンで、ステッキに固定する場合と、フライングスタートの場合がある。フライングスタートは 100mから計測を開始する為、1900mレースとなる。

各クルーは 30 秒毎にスタートし、レース間隔は 5 分以内とする。

今回は、3 レーンと 4 レーンを使用した。予め 1, 3, 5 レーンのクルーを 2 レーンに待機、2, 4, 6 レーンのクルーを 5 レーンに待機させ、順次発艇させるものである。

レース中追い越される場合は、追い越されるクルーが隣のレーンに移り、レーンを空ける。追い越されたら元のレーンに戻る。

Time Trial は日本ではまだ行われていないが、悪天候等の為、全レーン

を使用する事が困難な場合、中断等により競漕日程が短縮された場合等に使用出来るのではないかと思料する。

・ Control Commission

今大会では I-Pad ではなく Photo book で行われた。C.C(出艇)は NTO が慣れていないのか段取りが良くない。Photo Book は 1 冊に全ての種目が入っている為、非常に分厚いものであった。

日本であればレース日程から予め出艇するレース毎に分け、役割分担し効率よく、スマートに対応するのだが。1 冊の Photo book をパラパラ捲り来たクルーを探している始末。又、栈橋付近にはテントも無く、雨天時はどう対応するのか、疑問を感じた。Photo book は紙をクリアファイルに入れてだけある。雨に濡れればそれまでである。幸い今大会中は晴天であったが。(余談であるがレース最終日の夜からこの近辺は Storm となった)

案の定、C.C.については FISA からクレームがあり、Photo Book、Advertising、Heel Rope の確認を厳密に行う様指導があった。FISA 委員による C.C. Member の監視・指導も行われた。

Advertising、Heel Rope(Max.7cm)についてはメジャーを使用して厳密に測る事が望ましいと指導されたが、現地ではその用意は為されて無かった。又、マスキングテープも予め用意されてなく、必要になった時点で慌てて用意するものであった。

今大会は TV 放映されていた為、Advertising は非常に細かい指導がされた。FISA Umpiring Commission Mr.Patrick Rombaut 氏が Jury でなく、視察に来られており判定塔にある部屋で TV の映像をチェックしていた。広告の違反が無いのか、服装が統一されているか、映像の中で不要な動きをしているものはないか、等である。スポンサーへの配慮が窺える。気にしていた例として、映像内での救助艇の動き (不必要にスピードを出していないか)、クルーの膝のストラップ (ナイキマークが大きく映っている)、ロングソックスの上部に大きく表示されているロゴ等。

クルーも様々なロゴ表示を考えてくるので、その対応も今後必要となる。

監視は TV 放映がある場合は、スポンサーへの配慮の為、事前のチェックを厳密にする必要がある (出艇してからでは遅い場合もある為) 然し乍、そうでない場合、ある程度の緩和は必要と考える。自己責任であり、違反行為があれば事後でペナルティを課しても良いのではないかと思料す

る。

・ Static Umpire

Heat、Repechage、Semi Final は Static Umpire (静止した主審)で行った。約 250m 間隔でレースをゼロレーンで監視する。必要に応じてコース内に入り対処する。今大会は 5 分間隔で行われた為、波を立てない事は効果があったと思料する。

今大会では Umpire Boat の不具合により一時審判艇は 5 艇となった。

Umpire 6 の担当者は判定塔の屋上でレースの全体的な監視を行った。

2000m を 5 分間隔で行う事であるが、今大会に出漕するレベルのクルーであると接触の危険も無く、問題無く遂行出来るが、技量に不安のあるクルーが出漕する大会であるところの時間間隔では危ういだろう。

唯、前述の Time Trial 同様、レース日程上時間的な制約がある場合、間隔を短くし、Static Umpire を使用する事も検討の余地があると思料する。

・ 判定 (Judge at Finish)

判定では ITO が 2 名配置され、Res. Judge at Finish は画面を見て着順を確認する。判定員(ITO)と NTO が目視で着順確認、ブザー、白旗掲示を担当する。

判定長は中間タイムを確認し、ゴール後、計測システム担当者が操作する画面を見て着順を確認する。(Bow Number が大きく表示される) 着順表の内容を確認し、問題無ければ “Official” と発声し着順を確定させる。



※判定塔内



※画面での着順確認



※計時画面

・ Para Rowing

種目は以下の通り。

AS : 腕のみを使用。

TA : 上体、腕を使用。

LTA : 脚、状態、腕を使用。

- ・ AS/TA 種目はストラップで各々の部位が固定されているかどうかを確認する。
- ・ 安全の為、Para Rowing Crew の出艇・帰艇桟橋は同一である。
- ・ Static Umpire ではなく通常の主審の場合、主審艇に余裕があれば2艇で遂行する。
- ・ 視覚障害者の為、発艇で赤ランプを点灯と同時に「Red Flag」と発声しスタートボタンを押す。ゴール後、レース成立の白旗を掲げたと同

時に「White Flag」と発声し、白旗を掲げる。

- 艇計量は健常者レースと同様にランダムに指定し行う。



Para Rowing 専用栈橋

III. 陸上施設等に関して

- フランス国内で国際大会が開催可能なコースは4ヶ所あり、Aigubelette Courseはその内の1つである。然し乍、頻度は少なくまだ2回目との事。特に今大会の為に艇庫を建設したのではなく、既存の物を使用していた。不足分はテントでカバーしていた。
- Para Rowing 開催の為ではあるが、施設内は出来る限り段差を無くし、Para Rowing 出漕者に配慮されていた。
- 艇は全て屋外の可動式アームに置かれた。ヨーロッパの国々はトレーラーに艇を積み込み自家用車で牽引している。レース終了後は再度積み込みし、すぐに帰途についていた。
- 水洗トイレの数の少なく、簡易トイレを多く設置していた。
- コース全般をカバーする Wi-Fi が設備されていた。
- 余談ではあるが、街中を見てもレースの宣伝等はされておらず、街を挙げての大会という感は無かった。

IV. 各写真



発艇台



線審小屋





表彰台



判定台



Accreditation（写真撮影は無）



Yellow card & Red card 審判員に 1 組ずつ配布された



※GPS 機器

中間タイムは GPS によって測定される。



Inpontoon



CC (Inponton) テントは無。



オール置き場



プレスルーム



観客席



指定された区域では湖に入って観覧

V. 終わりに

今大会は小生の初の **FISA** 大会参加であった。資金、漕艇場の広さ等の制限で、**FISA** 大会とはいえ万全な体制で大会が行われているとは限らない事を実感した。来年の世界選手権までにはある程度は改善されるであろう。

限られた日数で多くのレースを遂行させなければならず、その為に上述の通り、**Time Trial / Static Umpire** を使用していた事は非常に勉強となった。

審判業務ではきめ細かいサポートが出来る **NTO** の重要性を改めて実感した。今回の経験を国内審判業務及び今後の国内での国際大会での業務に活かせる様努力する所存である。又、日本の審判団が行っている **All Japan** で審判業務に統一性を持たせ、業務の改善を考える研修制度は世界に誇るべきものであり、信頼される要因である事を改めて認識した。最後になりましたが、本大会に派遣させて頂きました事に就きまして、日本ボート協会 上野審判委員長、千田国際委員長、相葉事務局次長、事務局審判担当 竹内様に心より感謝を申し上げます。

以上